



温厚篤実、蘊蓄の語り(撮影 高取剛充)

山との出会い

私が、初めて山と出会ったのは、7歳の時(大正10年・1921年)である。父が友人を訪問する旅に私を同行した。その友人は木曾御料林の管理責任者であった。

森林鉄道に乗せてもらって、どこか山間部につれていかれた。そして、高く大きい檜の本立の間から雲をまとった、雨上がりの木曾御岳の姿を見た。とても美しかったことを、ほんとうにかすかに覚えている。これが都会育ちの少年であつた私の心に、山が入ってきた最初であつた。

大正13(1924)年、成蹊学園小学校2年生の夏、父に連れられて富士山に登った。吉田口から登り、5合目小屋で1泊し、御殿場口に下山した。80年後の今日、

今なお健在な「虹芝寮」

私が成蹊学園在学中に学制が変わり、新制の7年生高校が設置された。その結果、同じ学園で14年間を過ごし、移転は大学だけという恵まれた状況で学徒生活を送ることになった。この事実が、「山」と縁のある生涯を送ったことにおおいに関与しているように思う。

成蹊学園在学(昭和6(1931)年、山仲間の中で「山小舎が欲しい!」という望みがでて、上越国境の谷川岳の東側に適地を探

し、山小舎を建築することになった。それが70年後の今日まで同じ場所に健在な「虹芝寮」である。この山小舎の適地探しや、小舎作りに関する諸々の手続き、そしてでき上がった小舎での生活や保全の仕事など……。いずれも、それまでやってきた単なる登山とは違う思いと目で山を見て、そして考えていかねばならないという、側面との付き合いがあった。母校の校長の「金は出してやるが口は出さない」という一言が、我々青少年をひどく苦しめたが、実にすばらしい教育であり、非常に面白い経験だったと、今になって思い浮かべるのである。

しかし、山小舎を維持することの方がはるかに困難であり、ひとつの小舎を今日まで維持してきた

連続講演会「語り継ぐ黎明期の登山……それぞれの山」

第二回 渡辺 兵力氏

「山への想い・山に残した足音」



2004年(平成16年)
5月号(No. 708)

社団法人 日本山岳会
The Japanese Alpine Club

定価1部 150円

URL ● <http://www.jac.or.jp>
e-mail ● jac-info@jac.or.jp

目次

渡辺兵力氏講演会「山への想い・山に残した足音」……………	1
100周年ニュース……………	4
報告……………	5
自然保護・高尾山自然観察会	
海外の山……………	6
支部だより……………	7
岐阜/山形/東海/宮崎	
Climbing & Medicine……………	33
東西南北……………	10
かつて大島亮吉や父が歩いた	
狭山の丘は今/河口慧海チベ	
ット請来品/丹沢のツキノワ	
グマ/山からの発想/上高地	
温泉ホテル資料	
ご協力	
図書受入報告……………	13
会務報告……………	14
募集とお願い……………	16
INFORMATION……………	18
ルーム日誌……………	19

▶ 日本山岳会事務(含図書室)取扱時間
月・火・木…………… 10~20時
水・金…………… 13~20時
第2、第4土曜日…………… 閉室
第1、第3、第5土曜日…………… 10~18時

成蹊大学の山好きの後輩たちに、心から感謝したいと思う。

スキー事始め

私の父は、秩父宮家ができた時から御用掛として宮家に奉仕していたので、殿下が初めてスキーをなさった時(大正11年・1922年)、細川護立さんの赤倉の別荘地にお供をした。その時にスキーを初めて経験した父は、なかなか面白いものだということで、直ちに私にスキーを買ってやろうと言った。そして探したが、子供用のスキーはどこにも売ってなかった。それで、作ることにしたが、どうせだんだん大きくなるだろうとあって、いくら手を伸ばしても先がつかめないぐらい大きなスキーと靴を作らせたのだった。

そして、それを持って五色にお供をさせられたのである。初めて見る真っ白な吾妻の山は美しいと思ったが、スキーの履き方だけを教わって、鉢森山の麓で一行の下山をじーっと待っていた辛く苦しい思い出は今も忘れられない。

自然から……「自力で学ぶ」と

私は山とスキーの存在を父から教わったが、どうして山に登るのか、どうしてスキーで滑れるのか、

ということは全く教わらなかった。父は、同時に始めた私に教える腕前を持っていなかったのである。

それで、山やスキーについて、自分で自然から学びとらなければならなかった。そして、一言居士流に言えば、自然から教わるのが最も自然で正当であると妄信していた。

大学では、新しい仲間と一緒に山に登りスキーもしたが、少しも引けをとらないと自負していた。小さい頃から山やスキーを始め、自力で、山と、雪と、風から学び、それに対応してきた。そのことが今思えば、得意だった気がする。しかし、その仲間たちが「世の中」について、私の知らないことをいっぱい知っているのには仰天した。私は「山」しか知らない都会の坊ちゃんだったらしい。

登山の屁理屈

山登りには屁理屈がつきものであるというのを、山の本で読んだ。本には「山を想う」という記事が多く、その方法論は、経済学や社会学で学んだように、静態的な均衡状態を山と人間との間に設定していた。山をこのように考えているのだ、こんないい山があるのだ

という話はあるが、学ぼうとしている技術については、十分な言葉で書いていないと感じた。

なぜかと考えたとき、山登りの技術とは、「技術」と「作法」、つまり「技法」ではないかと思うようになった。この両方をわきまえないければ、正しい登山はできないのではないかと……。

ところが、作法というのは全部人間が作ったものであって、山が作った作法はない。山登りとはそんなものだったろうかと考えた。そしたら、問題にぶちあたった。今まで私のやってきた山登りは、どうだったのだろうか……。

成蹊学園時代(昭和8年・1933年)に高木君と谷川に登ったのは、当時ドイツの学生だったシユミット兄弟がマッターホルンの北壁を初登頂した直後だった。その記事が雑誌に載っていた。その真似をやっただけで、決して大したことじゃない。非常に純朴なる学生であつたともいえるが、流行の先端を真似て、岩登りをやったのではなかったかと……。

二つの「知」の併存

成蹊学園在学の15歳の春休みに、後立山の五竜と白馬を雪のある間

に登ろうという話になった。高木君と2人で細野部落の大谷定雄という人夫を雇い、唐松の小屋に入った。その時、大谷が剣の方を眺めて「剣にあの雲ができたなら、2時間後に後立山は猛吹雪になる。吹雪が来る前に五竜へ行きましよう」と言った。その時、唐松の周辺にはまだ青空が見えていたが、確かに黒部川の谷間を越えた剣には雲がかかっていた。慌ててピッケルとアイゼンを持ち、半分駆け足で五竜を往復し、帰途は牛首の辺りで体が舞いそうな猛吹雪にあったが、無事に小屋に戻った。

あの時大谷が、2時間後の後立山の猛吹雪を予見できたのは、麓で農耕をしていた農民こそその知識ではないかと思う。彼らは、白馬の麓で米を作って生きていたから、自然を肌で感じる知り方をしていたように思う。

一方の知識は、学校や本で学ぶものだが、どちらの知り方も正しいのだと思う。知識には、自然から教わるものと、人から教わるものとの両方があるようだ。遊びや余技としての山やスキーでは、人から教わるのではなくて自然から教わる、自然にそうやってきたよ

うに思われる。

「雪線」へのこだわり

戦前に私が盛んに登っていた日本列島の山々は、所詮、雪線のない山であった。

だが、山登りの本の主役は、雪線以上の山や氷河のあるスイスの山々であった。雪線以下の山しかない国に住む私は、雪線以上の山や氷の世界の山登りを求めているのかもしれない。

今日、外国の山で雪線の上下など考える人はいないと思う。しかし、我々の時代、山登りをする者にとっては、なかなか重要な問題であった。山々の状態が違うだけでなく、生活する人々の生態にも大きな相違がある。

極地の雪線は海の中にある。カラコルムもチョモランマも雪線を越える領域の登山であった。雪線を越えると氷河がある。その氷河の上にまた岩があり、氷河の固い雪と、それから岩と、両方を登ったり下りたりしなければならぬ。それがヒマラヤの山登りだ。

ところが、日本には雪線以上の山はないから、やったことがない。その雪線を解決するのは、お金のようで、どうもその辺りで昔と今

の登山が違いだしたと感じている。

「集団的自由」の存在

それまで私がやってきた山登りとは、自由なスポーツであると思ってきた。その自由とは勝手気儘というのではなく、その山のあり場所の掟を守るというものである。そして「どこの山に、どのように登るか」を決める自由は個人にあると思っていた。南極やヒマラヤの遠征では「隊」を形成して国から出て行く。そこには個人の自由は存在しないものと了解していた。

ところが、3つの海外遠征で「集団の自由」を体験した。その典型が南極観測隊であった。多くの人々が集まり、力を出しきって基地を拓き建設し、越冬した。この事実に基づき、「集団の自由」と「個人の自由」の存在と、その必要性を痛感した。

「登山者」と「責任の認識」

「山登り」はステイティック（静態的）ではなく、山も動いているし、登る人間の方も動いている。だからむしろダイナミック（動態的）な関係にあつて、それがちょうど釣り合っている時に安全な山登りができて、壊れた時に遭難をする。

この関係を「あいだから」と表現し、私の登山者としてきた。同時に、登山は本人の責任の問題であり、他人が責任を負うべきものではないと思っている。自分の遭難をリーダーのせいにするようなことは、もっとも山登りを知らない人のいうセリフである。

しかし昨今の状況を見ると、リーダーや添乗員が悪いといつて、裁判沙汰になるということが日本以外でも起こっている。山登りの責任者というのはいくつ誰なのかという問題になり、登山における責任の認識が必要になってくる。

他のスポーツでも同じようなことはあるかもしれない。日本山岳会は幸いにして、今まで大きな問題はおきていない。しかし、今後はこの問題に対しての考え方というものをだし、触れることが必要で、それが世の中のためにもなるのではないかと思っている。

今、思うこと

登山やスキーのできない年齢になった今、思うことがある。

それは白馬や穂高の山案内人たちが、自然から肌で感じ知ったその知識を無にしてはいけないということである。それは説明するこ

とができない「知」である。だからこそ、その「知」に接し、経験することのない人たちに、何とかして伝え残すことが大きな課題であると思う。

もし、科学だけが正しくて、科学以外のものは正しくないという雰囲気がある日本山岳会の中にあるとすれば、それはいかげなものか。

自然の移り変わり、その物語っているものを肌で感じ取らなければ生きていけないのである。その知識を、余技の中にどのように取り入れ、役立てていくかで、山の危険が少なくなるのではないかと、90歳になろうとする今、やっとながめたところである。

【4月3日、東京体育館（参加者170名）で行われた、資料映像委員会主催の講演会記録を元に編集】
(奈良 千佐子)

渡辺兵力（東京大学OB）主な山歴
1933年・谷川岳一ノ倉奥壁積雪期初登攀。35年・千島列島国後島チヤチャ・スプリ冬季初登行。56年・第一次南極観測隊に参加。63年・東大カラコルム遠征隊副隊長を務める。80年・日本山岳会珠穆朗瑪登山隊登山隊長を務める。

100周年ニュース

創立100周年記念事業——記念登山について——

記念登山実行委員会 委員長 大蔵 喜福

■方針■

本会および登山界の活性化のため、100周年記念事業として会員から募集する海外登山計画を記念登山実行委員会が審査し、10隊程度を選び、募金より助成する。

できるだけ多くの会員参加という理念にそって、次世代に向けたメッセージ性の高い内容を選びたい。すでに会の総力を挙げての大規模登山は時代に馴染まない。未踏峰、初登攀などの探検あるいは冒険的登山、あるいは年代を越えたチームワーク、身の丈登山、支部主催登山、会員それぞれのチームレベルで行える範囲のものなど、本会の発展に繋がる登山計画の応募を期待している。

100周年登山は登山界の底上げをはかる大事な事業と位置づけたい。本会は、高齢化の一途を辿っているが、より発展を望むには新しい人材といえる実践登山者を数多く会に迎えたいと考えている。そのためには広く世界の山域に日本山岳会登山隊を送り出し、その活躍を世に露出し、本会の新たな姿勢を周知させることに意味がある。ゆえに会員の登山計画に対し、できるだけ金銭的援助をし、本来の山岳会のあるべき姿としたい。

■3本の柱■

1. 組織は常に若い人材の代謝で発展するものである。若者が育つ登山を応援することが第一義である。先鋭的登山の実践で高レベルな登山を世界に示す計画が欲しい。アルパインスタイル重視で世界的クライマーの輩出を望む。小・中・高校生らが、夢が具現できる会として山岳会が羨望的になりたい。
2. 会の現状、身の丈に合った中高年、高齢層の登山も推進したい。現在すでに会員年齢層においては、50代以上の会員が86パーセントを占める状況である。高年層に魅惑的な登山計画も必要不可欠である。
3. 支部活性化のために支部登山計画を応援する。

支部に関しては1および2の内容を基準とするが、実践することの意義に重点を置きたい。

■実践計画の経緯と予定■

(**：未踏ルート、*：未踏峰)

- 東海支部 '03/12～'04/1 冬期ローツェ南壁登山隊 (8516m) ** 終了
- 事業委員会 '04/4～5 テンギ・ラギ・タウ登山隊 (6943m) **
- 学生部 '04/8～10 ムスタン登山隊2004 (チービヒマール 6650m・サリブン 6328m) *
- 関西支部 '04/8～11 西チベット学術登山隊2004 (パチムハム 6529m・チャンチュン 6080m) *
- フォーラム委員会 '05/4～6 マナスル登頂50周年記念登山隊2005 (8163m)

<以下予定>

- 福井支部 '05/4～6 ニンチンタングラ扎那日字峰 (6214m) *
- 青年部 '05/8 東南アラスカ岩峰群(デビルズトンボ 2767m等) * 偵察 '04/7

その他、インド東ヒマラヤ、ブータンの未踏峰、チベット、アメリカ山岳会等より合同登山やお誘いの提案が、海外登山委員会に来ている。興味ある方は担当理事に問い合わせてほしい。

■事業費の案■

- 海外登山隊助成——約1000万円。審査のうえ1隊10万から100万円ほど助成
- 国内登山助成——科学委員会「日本列島中央大分水嶺の一斉踏査」実施中

■告知など■

- 2004年10月末締切り、2004年年末に委員会審査、登山期間2005年3月～2006年5月実施まで。
- 募集告知、申請書は海外登山基金委員会の用紙記録は日本山岳会100周年記念事業助成として『山岳』はじめ各メディアに発表する。

100周年募金にご協力をお願いします

報告

5月

Report

日本山岳会の各委員会
同好会の活動報告です

自然保護委員会

高尾自然観察会

3月27日、丸3日間にわたる移動性高気圧に覆われた快晴続きの初日、JR高尾駅前には、男性13名、女性6名のJACメンバーが期待に胸を膨らませ、全員が定刻に集合した。講師は、川越会員紹介の米沢邦昌氏。森林インストラクター、高尾ビジターセンターに解説員として7年、正に高尾の主である。

さつそくにキーワードをいただく。「何でだろう?」の姿勢が大事。常に疑問をもつこと。全体が深く見えてくる」とインタープリテーション精神の真髄をついたお言葉。ところが頭が固くなるとなぜが発せられないというより、判らないという方が正しい。そこで、なぜ

を講師の口からいただき、目から鱗が落ちる思いを数々味わう日となった。

駒木野公園、2本の樹木に注目する。上を覗て枝先がどのように違うか。混んでいる小さい葉っぱ、まばらなもの大きい葉っぱ。そして大きな葉っぱは、オレは葉を付けるのは一番最後でいいよと小さい葉に順序を譲るという自然の優しさ。

蛇滝から登り、橋を渡り、4号路の分岐。そこに大きな落葉樹。それぞれの樹木が独立、かなり離れている。日照権を犯していない。お互いが相談しあつて、空の空間を分割支配している様子。これまた自然の神秘としか言いようがない。一説によると、葉っぱが近づくと、揮発性物質を出して成長を止めるとか。自然の森のルールが

ある、本当に礼儀正しい自然の世界である。

4号路モミ林稜線先。急峻な崖にせり出して、斜めに無理した形で樹幹を出している樹木。指摘されて良くみると、背骨のように上部が膨れまるで筋肉がついている様子。その気になって見ると頑張っている樹木が何本も! その健気な想いとひたむきな姿に思わず脱帽、感嘆。

頂上直下静かなテラスで、カエデの羽の付いた種子を飛ばす。形から見ると、2枚の羽根のついたものがスムーズに飛翔するものと

ばかり思っていた。だが1枚羽のもののみがキレイに回転飛翔。これには誰もが意表をつかれた想いをしたようだ。自然を見るときは、観て、触つて、嗅いで、やつてみるこの大切さを学んだ。また、虚心坦懐に観察するという観点を改めて教えていただいた。

里山の風情を残した豊かな自然が息づく裏高尾から表高尾に抜け、野鳥のさえずりを聴きながら至福のひととき。全員が新たな感動と、それぞれの心に故郷探訪の想いをいだいた春爛漫の1日であった。

(古田 寛昭)

▲世界的に類を見ない貴重な探検記録

禁断のアフガーニスタン・パミール紀行

ビクトリア湖畔

——ワハーン回廊の山・湖・人——

平位 剛著

A5判 480頁 定価3,800円

地政的理由から永らく外国人の入域が閉ざされていたアフガーニスタン東北部に盲腸のように突出するワハーン回廊へ故マスード将軍に庇護され、1999~2001年の3年間探検に入った世界的に類を見ない貴重な探検記録。



◎好評発売中!!

定価(本体33,000円+税)

カラコルム・ヒンズークシュ 登山地図

〔付〕カラコルム・ヒンズークシュ山岳研究

A4変型判 上製美装ケース入 385ページ B全判地図13葉

宮森常雄 (秋父宮記念山岳賞受賞)・雁部貞夫 共著 ・カテゴリーご請求下さい

ナカニシヤ出版

〒606-8316 京都市左京区吉田二本松町2
Tel.075-751-1211 Fax.075-751-2665
URL http://www.nakanishiya.co.jp/

海外の山

「夢をかなえる場」
エヴェレスト

江本 嘉伸



数々のIT機器を駆使し、活動報告を発信する近藤隊長

この20年、5月になると、エヴェレストに集結した各国登山隊の様子がウオッチし、このコラムで紹介してきた。

1985年秋、日本の植村直己撮影隊の7人が登頂した際、12月号に「延べ2000人のエヴェレスト登頂」と、驚きをもって書いたが、ことは「延べ2000人」と、驚かずに書くことになりそう。それだけエ

ヴェレスト登山が日常化したと言えるが、その中で旧ソ連圏の国々の登山家の進出、ネパールははじめアジアの民の活躍などの新しい流れができている。

登頂の成果は、通常10日以降に集めるが、ことは、5月13日現在、まだ登頂者はいないようだ。

話題はいろいろだ。たとえば、コネティカット州登山隊のメンバーとして参加しているルー・マニア生まれのアメリカ人、ゲオルグ・ディジャレスクとその妻のストーリーである。

ディジャレスクは、1999年以来5年続けて、毎年エヴェレストに登頂しており、ことはなんと6回目の毎年登頂をねらっている。それも、同じ隊に参加しているネパールの妻、3回登頂の女性記録を持つラクパ・シェルパの「4度目の登頂」とともに、だ。

ふたりの人生が、二十一世紀のヒマラヤの状況を象徴している。

チャウシエスクの独裁がルー・マニアを支配していた頃、ディジャレスクは、走っている列車からドナウ川に飛び込み、アルプスを越えて西側世界に脱出した。登山家ではなかったが、アメリカで市民権を得た後、ワシントン峰を冬期に登ってクライミングに目覚めたという。スポンサ

ーもついた。閉ざされた社会から解放され、「自由の天地」で知った生きる手立てが、登山だったのである。

教育施設も医療施設もない、マカールの麓の村で9人のきょうだいとともに育ったラクパにとっても登山が人生の重大なチャンスをもたらした。2000年にネパールがはじめてシェルパニ(シェルパ女性)だけのエヴェレスト登山を計画した際、リーダーとしてネパール女性初の登頂(かつ生還した)者となった。カトマンズで国王からグルカ・ダクシン・パフ勲章を受けたラクパは、はだして出発した故郷の村に、ヘリコプターで凱旋した。

ふたりが出会ったのは、カトマンズでの女性登頂祝賀会で、登山を中心とした人生に互いの共通点を見出したのだらう、翌年結婚した。ラクパは自分の村にない学校や医療施設を登山行為を通して支援したい、という。

ことしのふたりの目論見は、もう少し大きい。エヴェレストを終え、カトマンズで休んだ後、パキスタンに飛び、初登頂50周年を迎えたK2峰を目指すのである。「夫婦で1シーズンに世界第1、第2の高峰登頂」なんて、半世紀前に誰が想像できただろう。

日本初の「商業公募登山隊」としてエヴェレストをねらう「アドベンチャーガイズ隊」は、近藤謙司隊長以下、6人のクライアント全員が順調に高度順化を終え、アタックを目前に、いったんベースキャンプ以下まで下った。アドバイザーとして近藤とともにチームを率いる大蔵喜福は公募登山の意義について「登山の価値論より、夢の実現、ということが大事だと思う」と、話していた。

彼らのウェブサイトは、連日欠かさず活動報告と、日本からの応援メールで賑わっていて、終始なごやかムード。BCについては中国ホテルがオープンしたこととあわせ、エヴェレストの風景は大化けしたのである。

前号で少し紹介した竹内洋岳の「H.A.M(High Altitude Marathon)」9か国10名のクライマーが参加する新しい登山プロジェクトで、4月上旬からネパール、チベットでそれぞれの課題にトライした後、5月上旬にアンナプルナBCに集結し、ひとつのチームとして南壁を無酸素アルパインスタイルで挑む計画だ。竹内は、手始めにXi-feng Peakという7200m峰に挑み、ついでシシャパンマ南西壁に転進、最後にアンナプルナにアタックするという計画だが、最新情報は入っていない。



降り出しそうな空のもと、記念撮影

冬季現地小集会・泣きだし
そんな曇天の釜ヶ谷山
釜ヶ谷山は岐阜市から北北西に
20キロほどに位置する。2月22日、

岐阜支部

JAC 支部だより



全国各地の支部から、独自の活動状況を
レポートします。

山県市役所に参集し、伊自良湖畔の甘南美寺駐車場まで下車。キャンプ場からみぞれ谷林道に入り、ヒノキ林で覆われた薄暗いなかを快調に進む。谷沿いの林道は堰堤で終わり、枝谷に沿って急な階段を登り始めると「オーイ休ませろ」と、1回目の休憩。登山道はよく整備されており、休憩後の登山道はさらに急勾配になり、喘ぎ登る。行程の3分の1ほど登り、展望台の東屋で2回目の休憩。展望台からは雲が低く伊自良村の谷間がわずかに望まれるだけだ。送電線の鉄塔を迂回するあたりは訪れる人が多いのか、道が凹地状になり、岩が露出している箇所もある。奥の院で甘南備明神に参拝し3回目の休憩。行者岩を巻き一投足で尾根上に出る。周囲は落葉樹林に変わり明るい尾根道をいったん下って登り返して登頂。降り出しそうな空を見ながら、少々早い食事に舌鼓を打つ。

帰りは尾根道を少し戻り竜神(赤谷)コースを下山する。北斜面に面したコースの残雪の感触に酔い(酒?)、ところどころ石畳となっている濡れた道を慎重に下る。釜ヶ谷に合流してさらに慎重にす

山形支部 樹氷原を滑る会

すめば林道の車止めにする。アスファルト舗装された林道を下り無事駐車場着。雨から免れ甘南備明神に感謝感謝。参加者18人。
(今峰 正利)



ゲレンデ内にあるホテルに集合

2月21、22日の両日、山形蔵王を会場に16名の参加者をみて開催した。晴天に恵まれた当日、横倉山山麓にある「アストリアホテル」に集合。樹氷原を滑る会

ル」15時集合の案内を出したが、この青空のもと各メンバーは早朝より集合。樹氷原ホテルのある地蔵岳を目指し出発し、数本のリフ

トと今シーズンにリニューアルしたゴンドラを乗り継ぎ11時頃ホテルに到着した。

ゴンドラより見る今シーズンの樹氷は暖冬の影響で一部が崩壊しており、例年の壮大さは見られなかったが、青空に映えるモンスターは相変わらず素晴らしいものであった。山頂付近は風が強い状態だったが、一部のメンバーは主峰の熊野岳を越え蔵王ライザスキー場まで山スキーを楽しんだ。

集合案内時刻には各ゲレンデに散らばっていたメンバーも集まり夕食前の懇親会で盛り上がる。ま

新企画! ☆K2初登頂50周年記念特別企画☆

バルトロ氷河のさらに奥地に聳え立つガッシャーブルム峰を望む

K2・バルトロとガッシャーブルムB.C. トレッキング29日間

①7月12日(月)～8月9日(月) 620,000円

②8月23日(月)～9月20日(月) 620,000円

東京発着



国土交通大臣登録旅行業第490号/出日本旅行業協会正会員 日本山岳会

アルパインツアーサービス株式会社

〒105-0003 東京都港区西新橋1-12-1 西新橋1森ビル2F ☎03-3503-1911

大阪 ☎06-6444-3033 名古屋 ☎052-581-3211 福岡 ☎092-715-1557

e-mail: info@alpine-tour.com http://www.alpine-tour.com

たホテルのはからいで樹氷ライトアップツアーの企画があり、良い思い出となった。

翌日も晴天に恵まれたが、朝より気温が上昇し中央ゲレンデ付近(1300^{メートル})で10℃と、春を感じさせる陽気のなかスキーを楽しんだ。
(國井 聖仁)

東海支部

東海岳人写真展、山の絵展 「自然と山のパフォーマンス」

3月9日から14日まで名古屋市民ギャラリー栄にて第9回東海岳人写真展(山の絵展併設)が開催された。入場者数4695名と記録更新のなか有終の美で終了できたのは、出展者の皆様や共催、後援関係者、日本山岳会の各役員の方々のご支援の賜と心より厚く御礼申し上げたい。

今回も皇太子殿下、橋本元首相から特別出展していただいたことや、中日新聞でPRが3日間連載されたことが大幅増員の要因となった。展示内容として槍ヶ岳や羅臼岳などの「国内の山」、「海外の山」、中でも庄巻は昨年12月にロイツェ(8516^{メートル})南壁に挑ん



入場者数も作品内容もアップ!

だ登山隊の写真。強風が吹きシャッターも凍る氷点下30度の状況下、ロープにつかまって絶壁を登る隊員の姿。ほかにもエヴェレストや南極、高山植物などの作品と、併設の「山の絵展」に山屋が描いた絵など、山の厳かな威容や自然の美しさをとらえた力作が並んだ。

今回は、冬季ロイツェ南壁の登山隊長・田辺治氏のプロフィール(顔写真入り)も一緒に紹介したので、この人がロイツェの人か?今日は会場に来て見えないかね?と質問が多かった。

また回を重ねるに従い、支部員、

創立100周年記念事業にご協力を

支部友の方々のレベルアップが図られ成功の糧となった。

この東海岳人写真展を当初立ち上げた故・鈴木重彦(通称デカさん)もこの成功には草葉の影から喜んでおられると思う。次回もデカさんの意志を継ぎながら一層のレベルアップした特徴を打ちだして行きたい。

撤収後18時より展示会場のB1階「嘉門」にて総勢28名の参加を得て寺西支部長からの報告と御礼の挨拶、箕浦氏の乾杯の音頭で盛大に幕を開けた。始終写真展の話題に花が咲いた。

あつという間に時間も過ぎ、中締めを寺西支部長の万歳三唱で無事幕を閉じた。最後に花、菓子、酒等を差し入れてくださった方々には厚くお礼を申し上げます。

(林 芳弘)

宮崎支部

支部20年の歴史を刻む

4月3日、宮崎市・ひまわり荘において、創立の節目となる第20

会宮崎支部総会が、支部会員95人参加(委任状30人)の下に、物故会員の冥福を祈念したあと盛大に開催された。開会にあたり、大谷優支部長は熱気あふれるメッセージを会員に贈った。

「20回目の総会を迎えるにあたり『温故知新』を試みることは意義深い。宮崎支部創立の仕掛け人は『棲み分け理論』で世界的な生物学者で元日本山岳会会長の今西錦司先生であり、県内の山を同行しながらご指導をいただき、県内在住者23人の賛同を得て1985(昭和60)年7月15日、全国20番目の支部として誕生した。

本会は、創立100周年(宮崎支部20周年)という輝かしい歴史と伝統があり、アルピニズムの心意気のもとにその目的を踏まえ、支部創立の原点を「ディスカバーふるさと」の一点にしほり、心を寄せ合い宮崎支部ならではの伝統づくり力と知恵を結集し、「報告、連絡、相談」を密にしたクラブライフをエンジョイしながら登山活動などを推進しよう」と訴えた。

Climbing & Medicine · 33

山中での被雷の予防と現場処置

中島 道郎

これは国際山岳協会連合医療部会の今年度『ガイドライン』の要約である。(全訳は本年発行の『登山医学』第23号に掲載される。)

推定被雷死亡者数は世界中で1年間に約1000人、それは全被雷者の3割で7割は死を免れている。死亡はほとんどが直撃による即死で、原因は心肺停止。間接的に、落雷した物体から発する火花とかその物体に流れる電流に接触しての感電の場合は大抵助かる。この場合は、精神・神経障害、火傷、鼓膜破裂、等々多彩であるが、ほとんどが後遺症なく治癒する。気絶し、呼吸していなくても、心臓が動いていれば助かる可能性が高いので、直ちに心肺蘇生法のABC、すなわち「気道確保・人工呼吸・心臓マッサージ」を実施すること。自発呼吸があれば大抵助かる。自発呼吸がなかなか戻らない場合でも、心臓が動いている限り、人工呼吸を諦めないこと。そう

して助かった例は非常に多い。つまり、その現場にいなが幸いに助かった者が、直ちにその場で手当てをするのが原則なのは、雪崩の場合も同じ。被雷者の体に触ると感電すると思っている人があるが、それは絶対ない。

被雷事故は予防が第一。落雷を事前に察知して、安全な場所で雷が通り過ぎるのを待つべし。ここで、「30-30の法則」、すなわち、「光ってから30秒以内に鳴ったら危険区域内にいますと思え。最後の雷鳴から30分経たないうちは行動を再開するな」を忘れないこと。安全な場所、とはいっても、とっさに簡単に見つかるものではない。まず山頂・山稜・背の高い物体の周囲から離れること。岩壁の高さを底辺とする三角形の空間は安全とされるが、それでも岩壁から1mは離れていること。山小屋があれば申し分ないが、壁から1mは離れていること。

金属は雷を引き付けることはないが、電気の良導体なので、カラビナ等は体から外し、担いでいるスキー・ストック等は降ろすこと。

集団被雷の場合は分散して避難する。

山岳遭難救助の要諦は二重遭難の絶対回避にある。ヘリで救助に向かう場合は、雷雨が収まってからにすること。雷雲の中を飛行するのは危険度が高い。

症状が数時間後に出現してくる例も多く、被雷者は必ず入院させて経過観察すること。



創立20周年を迎える宮崎支部

総会では、平成15年度の事業報告、収支決算報告を行い、さらに平成16年度の事業計画(中央分水嶺踏査、日本山岳会創立100周年記念九州地区大会および宮崎支部創立20周年記念事業の開催計画、水源の森育林事業、遭難救助体制の補正、インターネット小委員会の設置等)および収支予算案を審議して、原案通り可決、承認された。特別講話は、宮崎大学農学部教授・吉田直人宮崎支部会員によって「微生物の活動と自然」と題して行われた。スライドを活用して

の講話は、微生物とは何か、山行で出会う微生物(キノコ類、粘菌、地衣類)、花や実にある酵母や乳酸菌の存在、山における人間と微生物の関係(トイレ問題、大腸菌群数、水質基準)等、微生物との関わり合いについて興味津々で、会員は認識を新たにしました。

講話終了後、同会場において懇親会に入り、岡本真理子会員の軽妙な司会に巻き込まれ、のど自慢や全員参加の日向民謡・ひえつき節で賑やかに踊り、「日向山旅賛歌」の合唱で幕を閉じた。

(井野元 繁)

山の本の古書店

在庫目録年2回(5月・11月)発行
ご希望の方お申ください。

ご蔵書を整理するときはぜひ弊店に!



古書買入

晴山書房

東京都中野区上鷺宮4-6-3

TEL&FAX 03(3990)4540

東西南北



イラスト・宇都木慎一

かつて大島亮吉や父が歩いた狭山の丘は今

松本 恒廣

慶應義塾山岳会（後の体育会山岳部）の年報『登高行』第1年（1号、大正8年7月発行）の編集兼発行人に父・信廣の名がある。この号には大島亮吉「狭山の丘の1日」（大島亮吉全集1 あかね書房版にも収録）、松本信廣（680番）「狭山紀行」、中条常七（677番）「武蔵野紀行の一節」の3編が「武蔵野行」と題して載っている。

昨年末、23回忌に兄弟3人が集まった際、父が書き残した「狭山紀行」が話題となり、1度歩いてみようかということになった。

陽春の1日、当時の道順に従い昔の川越鉄道・現在の西武線東村山駅からスタート。ご多分に漏れ

ず車の多いわりに道幅が狭い。前方に狭山の丘が見え出す頃、古刹徳蔵寺に着く。ここには国指定重要文化財の元弘の板碑が保存されている。元弘3（1333）年、新田義貞鎌倉攻めの際の戦死者供養碑とのこと。ここから間もなく狭山丘陵の一角八国山緑地の登り口となり、やっと山路らしくなる。

八国山とはかつては遠く信濃、常陸、上野など8つの国の山々を眺めることができたからだというが、今や左右の樹間から見え隠れする家並を見るにつけ、すさまじい宅地化の荒波に辛うじて堪えている緑の孤島を思わせる。ここに將軍塚と呼ばれる小さな塚があり、大島の文によるとここで「松本君が太平記のひとつくたまりを読み出した」とある。

東京都と埼玉県の境をなす小尾根の道は、やがて下つていったん住宅街を抜け八幡宮を経てトトロの森を通り、ゴルフ場のフェンス沿いにしばらく行くと荒幡富士の下に出る。高さ15メートルほどの築山で富士講とか御嶽教とかいう山岳信仰者が築きあげたものらしい、というのは父の説である。

上に登ると確かに眺望は良く、

大岳山を始め奥多摩、丹沢の山々を一望にできる。残念ながら本家の富士山は雲に隠れて見えず。近くの人間自衛隊基地からのC-1大型輸送機が爆音を残して飛び去る。遊園地西口に出て、西武ドーム球場を右手に多摩湖を左に舗装された遊歩道をしばらく歩けば、湖畔は満開の桜。ひと休みして球場前駅へ向かつて坂を下つて行くと、山口千手観音堂がある。

この観音堂の回廊右手に古鐘が吊るされている。大島の紀行文によると父はこれが高麗王寄進の朝鮮鐘とは信じられぬらしく、どう思うかと聞かれた大島は、私にわかるはずがないでしょうとそつがなく、同行の中条が鐘の両面に鋳



千手観音堂の古鐘

刻された画は妓生だと断定したと書いている。

皆はこの後、背後の丘陵を越えて勝楽寺を訪ね、箱根ヶ崎を経て青梅線福生駅へと向かっているが、当時の勝楽寺は山口貯水池・狭山湖の湖底に沈んでいて、この時点で先人の歩んだ道を辿ってみようというロマンは潰えたのである。

一行が歩いたのは大正8年1月26日。当時、人は通らないし、人家はなし」とまで言われた狭山の丘の変わりように、やがて90年近くになろうとする過ぎ去った歲月を感じた1日だった。

「河口慧海チベット請来品」を見て

藤本 慶光

去る1月16日から2月29日まで仙台市博物館で「はるかなる憧憬（あこがれ）チベット」と題して、東北大学が所蔵する河口慧海のチベットからの請来品の展示会が開催された。日本人として初めてチベットに入った河口慧海は延べ17年にもわたる2度のインド、ネパール、チベットの旅行で膨大な仏

典や民具を持ち帰った。

今回の展示は慧海の甥の河口正氏から東北大学文学部に譲渡されたものの一部で、東北大学総合学術博物館の企画展として実施されたものである。

「評伝河口慧海」なる大冊を最近出版された高野山大学の奥山直司教授の強いおすすめで仙台にでかけて、充実したコレクションをつぶさに眺めてきた。

慧海が請来したものは同時代にチベットに入つた多田等観や青木文教のそれに較べて圧倒的な分量の多さをもつていて内容も多方面にわたっている。

中心となるのは仏典、仏像、仏画、仏具など仏教美術資料であるのは当然で、会場にも多く展示されていたが、今回の展示で特に目をひいたのは豊富な植物、鉱物標本や、いろんなチベット民族の衣類染織品、民具の数々であった。

分厚い植物標本帳に丁寧に糸でとめられている各種のインドの植物標本やボダイジュの葉などの保存状態はきわめて良く、彼がしっかりと訓練を得たことをしのばせる。鉱物標本の中にあつたイタコルマイトとよばれる岩石は、石英

を主体として雲母が中に含まれるが、風化で雲母が失われて隙間ができ、岩石でありながら曲がることから「コンニャク石」なる俗称がつけられている。

圧巻はチベット民族のさまざまな生活用品で、衣類、靴、食器、錠や鍵、財布、首飾りなどの宝飾品と実に多岐にわたっていた。私ごとくに興味を抱いたのは靴底で、深さ2センチほどの靴底に動物の糞のような粒状のものが敷き詰められていて、この断熱効果で厳しい外部の寒気を遮断しているようにみえた。

これらのパラエティーに富んだ慧海の民具の請来品は、彼がかの地を旅した二十世紀初頭のチベットの信仰、生活様式を実によく示す資料で、第2次大戦後のチベットの大きな政治的、社会的変化の後となつては、往時の文化遺産を今に伝えるきわめて貴重なチベット研究の基礎資料となるものである。

あらためて河口慧海が一人の仏教徒であつたのみならず、広範な好奇心と活動力と実行力を持った偉大な人物であつたことを痛感した。

丹沢のツキノワグマ

祖父川 精治

神奈川県でまとめた丹沢山地で捕獲したツキノワグマの捕獲数の資料があり、近年の年度別集計は次のとおりである。

昭和59(1984)年10頭、60年7頭、61年6頭、62年2頭、63年2頭、平成元年2頭、2年2頭、3年14頭、4年0頭。平成4年以降からはクマの狩猟を全面的に自粛しているため、本年度まで捕獲数0頭が続いている。では、自

前年の捕獲数がなぜ多いのかという、誰が見ても、来年からクマの捕獲が全面的に禁止となるというので、無秩序にそれとばかりに捕獲した結果だともわれる。その時に思いやりのある保護対策はどうなっていたのかと、いまさら悔やんでも始まらない。哀れな悲しいクマたちである。戦後からの捕獲数の最高は、昭和51年(1976)の16頭となつている。数年前、丹沢の宮ヶ瀬湖周辺の県道で、クマが交通事故死という想像できないような痛ましい事故が発生した。もし開発によってダム湖や車

ユングフラウヨッホにいちばん近い村、ウェンゲンの家庭的なホテルアイガーと、スイスの旅の専門店アルプスウェイが自信をもってお勧めする共同企画。

アルプスウェイご利用で、ホテルアイガーにお泊まりの日本山岳会会員様へ4つの特典。

1. ユングフラウのよく見えるお部屋を優先的にご提供。
2. 民族料理フォンデュをご滞在の夕食に1回ご用意。
3. アルプスウェイ駐在員による1日の専属ガイドサービス。
4. ホテルのオーナー、フックス氏より地元産リキュールをプレゼント。



あなたのスイス旅行を、このホテルアイガー滞在を組み入れてご用意します。

お問合わせ
お申込みは **アルプスウェイ**

<http://www.fellow-travel.co.jp/>

〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂2-16-8 ビジネスヴィップ渋谷ビル4F

Tel.(03)5489-9541 Fax.(03)5489-6300

e-mail alpsway@fellow-travel.co.jp

〒530-0002 大阪府大阪市北区曽根崎新地2-3-13 若杉大阪駅前ビル6F

Tel.(06)6347-8984 Fax.(06)6347-8986

e-mail osaka@fellow-travel.co.jp

主催：株式会社 **フェロートラベル** （日本旅行業登録）

国土交通大臣登録旅行業664号 協賛：ウェンゲン観光局・ツェルマツ観光局 後援：スイス政府観光局

ALPS WAY.
We Love Swiss

道がなければ自由に山谷を歩くことができたのである。

最近の調査によると、丹沢山地つまり神奈川県下のクマの生息数は一気に激減して約30頭前後と推定される。中には調査のためにアンテナ付きのクマもいるといわれる。狩猟のやりかたも進歩しその気になれば全てを捕獲して全滅させることも可能である。この貴重な自然環境はヒトだけのものではなく、クマが生息しない山域は山ではなく魚の棲まない川は下水路と同じことである。狩猟を今後全面的に自粛規制しても、専門家によると多めにみて40頭程度までしか増加しないのではと憂いている。また、幹線道路等による丹沢山地の分断で孤立し遺伝的多様性の確保が急務といわれる。他山域と自由に交流ができる緑のコリドーとして、広い車道を部分的にトンネル化するという計画を聞いたことがある。さらに、首都圏に近く登山者や行楽客が手軽に楽しめる丹沢山地独特な地域条件が重なっている。

北の方では、冬眠期間は容易に人を寄せ付けない深い積雪の自然環境が彼らの生活圏を守っている。

積雪を見る冬季でも手軽に雪山の気分をたのしむ大勢の登山者が入山するので、今では追い詰められた中央部標高千ヶ岳前後の山域が冬眠エリアだと推定される。

わずかの30年間で、ブナの立ち枯れやスズタケの退行等丹沢山地の森林生態系は大きく壊れてしまったといわれる。クマが安心して自由に生息できるような生物多様性のある自然環境を守ってやるのが、私たちの暮しや生活を守ることにもなる。

幸いなことに、本年度から神奈川県では「丹沢大山再生への道のり」として県民参加の新丹沢大山自然環境総合調査を3年計画で実施するのでその結果を大いに期待したいものである。

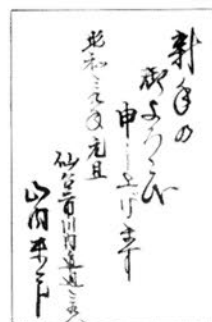
山からの発想

長田 義則

愉しきゆえに多くの会員が集まる恒例の年次晩餐会。晩餐のお酒に今西家より寄贈された四海王の限定「山」の書は、会員・芳子夫人の麗筆だろうか。

ここに40年前の年賀状がある。

仙台のピッケル鍛冶の山内東一郎からのもの。



会員の平柳一郎氏は「山岳」第62年に「山内ピッケル抄録」として、すぐれた論文を発表している。

昭和37年、72歳の翁にピッケル作りを依頼し、その返事に「……老齢で仕事の能率は日ごとに落ちるので2、3年掛かりになるが待つてほしい……」との手紙をもらった。翌年の北海道の山の帰りに翁を訪ねた時、鍛造実習の経験ある筆者の願いに、翁は火床、金敷きのある仕事場を見せてくれた。

昭和40年7月、翁の「……1日も早くお約束を守るようにつとめておりますが、なかなか思うように行かず……」の言葉に心打たれた。

その年の12月、翁の住居と傍らの仕事場は火災に遭い焼失した。苛む心と東北の冬の厳しさに耐え、仙台にも春の兆しが見え始めた4

月初旬、ピッケルの名匠、山内東一郎は75年の生涯を閉じた。

山内ピッケルは大正13年に試作され、それを世に送り出し、後に無双のピッケルと称賛した西岡一雄の好日山荘も同年に開店した。

論文はその試作期、初期、中期、後記と翁のピッケル作りの変遷を詳らかに解説している。鍛える技術があくなく修練にしろ、翁にとってタガネで「山内作」と銘打つ時の喜びは一入であつたろう。その銘も年代別に移り変わると平柳氏は指摘している。

年賀状の墨跡は、まさに翁が幾多のピッケルに刻んだ特徴ある銘の筆致である。晩餐会の酒銘「山」と追想も重なり、美酒を味わった。翁の銘の筆致は草書風の筆跡では特異独創と考える。

晩年、師弟のいないピッケル作りに、翁は手ハンマー一丁で鋼を打ち出したのか、大ハンマーを打ち降ろす先き手を尋ねると「家内がやる」と言つて、小太りの奥さんを見遣った。

翁夫婦の息の合った互い違いの槌音が、憧憬したピッケルを鍛えた。もって後世に語り伝える名品。

(文中敬称省略)

平成15年度「海外登山基金助成登山」報告

平成15年度(第15回)海外登山基金助成登山計画募集は、平成16年2月15日に締め切り、海外登山基金委員会を2月25日に招集、山岳会ルーム会議室で、助成の可否および金額の検討をしました。本年度は内容の濃い総数8隊の応募をみました。昨年までは金額の些少に配慮し、助成する隊を絞る傾向にありましたが、本年度からは登山基金本来の意味に一步踏み込み、できる限り多くの隊に支援する方針で審議いたしました。その結果を報告します。

(助成総額160万円・1隊は辞退)

1. 鎌倉同人インドヒマラヤ登山隊2004

メルー峰北東壁未登ルート挑戦、シブリン北壁チェコルート挑戦・35万円 (隊長・馬目弘仁 隊員2名)

2. ネパールヒマラヤ広島・登山隊2004

テンカンボチェ峰、北東ピラー初登攀に挑戦・35万円 (隊長・名越實 隊員1名)

3. 日本山岳会テンギ・ラギ・タウ・シニア登山隊2004

テンギ・ラギ・タウ (6943m) 未踏ルートより登頂・30万円 (隊長・中原良材 隊員5名)

4. 日本山岳会関西支部西チベット学術登山隊2004

未踏峰バチムハン (6529m) 北壁・チャンチュンギンゾンカン (6080m) 北壁登攀のほか西チベットにおける河口慧海足跡の調査・30万円

(総隊長・阿部和行 隊長・大西保 登山隊6名、学術隊4名)

5. 日本山岳会学生部ムスタン遠征2004

チービ峰 (6650m)・サリブン (6328m) 未踏峰への挑戦・10万円 (隊長・和田岳史 隊員4名)

6. ゴールデンピーク エクスペディション2004

ゴールデンピーク (スパンティーク 7027m) 北東面新ルート&スキー滑降・10万円 (隊長・平出和也 隊員1名)

7. どさんこ同人K2登山隊2004

K2 (8611m) 南南東リブからの登頂・10万円 (隊長・松本政英 隊員4名)

図書受入報告 (2004年3月)

著者	書名	ページ・大きさ	出版元	出版年	寄贈/購入別
雁部貞夫	歌集 崑崙行	122pp/15cm	短歌新聞社	2004	著者寄贈
山岳写真同人四季(編)	日本の山百景(写真集)	96pp/25cm	東京新聞出版局	2004	出版社寄贈
八戸ヒマラヤ遠征隊(編)	ドウナギリに青春をかけて	80pp/26cm	加賀勝(私家版)	1997	発行者寄贈
沖允人	インド北東部アルナーチャルの旅	210pp/21cm	沖允人(私家版)	2004	著者寄贈
南会津山の会(編)	続いろりばた	329pp/18cm	茗溪堂	2004	出版社寄贈
斎藤晋	谷川岳の自然(上毛文庫)	300pp/19cm	上毛新聞社	2004	著者寄贈
山田信明(編)	富山スパンティーク登山隊2003報告:富山山想会創立50周年記念号	33pp/26cm	富山山想会	2003	発行者寄贈
山本紀夫	ジャガイモとインカ帝国:文明を生んだ植物	342pp/22cm	東京大学出版会	2004	著者寄贈
日本山岳会科学委員会(編)	シンボジウム「中央分水嶺踏査について」	26pp/30cm	日本山岳会科学委員会	2004	発行者寄贈
平山善吉	南極・昭和基地の建物:研究と設計	499pp/27cm	丸善ブラネット	2004	著者寄贈
細川剛	あの樹に会いに行く	157pp/19cm	山と溪谷社	2004	出版社寄贈
George Band	Everest:50 Years on Top of the World	256pp/29cm	Harper Collins	2003	購入
Anderl Heckmair	My Life:Eiger North Face, Grandes Jorasses, & Other Adventures	269pp/24cm	Mountaineers	2002	購入
Jonathan Neale	Tigers of the Snow	336pp/24cm	St.Martin's Press	2002	購入
Rebecca A.Brown	Women on High:Pioneers of Mountaineering	258pp/24cm	Appalachian Mountain Club	2002	購入

『上高地温泉ホテル』 資料で協力をお願い

田畑 真一

株式会社上高地温泉ホテルでは、明治37年の会社創立から数え100周年を迎えることから、このたび、記念誌を刊行する予定です。

同ホテルは、日本山岳会の先人、大先輩の方々との関わりが深く、登山史の上からも重要な登山基地の役割を果たしてきました。私事、山岳会を通して同ホテルの委託を受け、現在諸資料の収集やら解読(古文書)を進めております。たとえば明治時代以降の山岳会誌『山岳』や旧制第一高等学校の関係文献からの資料収集などにも努めております。

こんなわけで、これはと思われる資料なり、文献なりをご存知でしたら、ぜひご教示を賜りたいと存じます。なお、掲載の可否については、同ホテルの編集方針もありますので、お任せを願いたいと存じます。

〒228-0001 神奈川県座
間市相模が丘4-66-12
TEL・FAX 046-253-8989

会務報告

3月理事会

日時 3月10日18時30分～20時20分

分

場所 日本山岳会会議室

「出席者」平山会長、平林、橋本各副会長、藤本、今村、小川、朴元、大蔵、賛田、田村、黒川、鈴木、野口、石田、篠崎、鳥居各理事、内田、一力各監事、宮崎、鰐坂、小倉(董)、西村、重廣各常任評議員

「委任」芳賀副会長

【審議事項】

1 平成16年度事業計画(案)について 藤本

本案にて総会に諮ることにした。

(承認)

2 平成16年度収支予算(案)について 藤本

●平成15年度、16年度の予算については順番を統一すること。

●平成15年度分は予算額ではなく決算額とすること。

右記2点を変更し、総会に諮ることとなった。

(承認)

3 理事会議事録署名人選任の件

藤本慶光、賛田統亜を選任した。
(承認)

4 海外登山基金助成の件 大蔵

海外登山基金委員会を2月25日に開催し、下記の7隊に計160万円を助成することとした。

① 鱈崎同人インドヒマラヤ登山隊 2004 (35万円)

② ネパールヒマラヤ広島・登山隊 2004 (35万円)

③ 日本山岳会テング・ラギ・タウシニア登山隊2004 (30万円)

④ 日本山岳会関西支部西チベット学術登山隊2004 (30万円)

⑤ 日本山岳会学生部ムスタン遠征2004 (10万円)

⑥ ゴールデンピーク エクスぺディション2004 (10万円)

⑦ どさんこ同人K2登山隊2004 (10万円)

4 (10万円)

なお、選考経過の説明が大蔵理事よりあった。

(承認)

5 ウェストン氏の手紙、書籍購入の件 田村

故小島鳥水氏が所蔵していたウェストンからの手紙、彼の書込みのある書籍などの売却打診があり、70万～100万円程度の範囲で購入交渉に入る。

(承認)

今年もさくらで会いましょう

6 日本山岳会所蔵絵画等の貸出規定について 鈴木

次回理事会で再度諮ることになった。

7 記念切手発行の件 藤本

郵政公社宛に山岳切手発行の提案をする。(創立100周年記念) (承認)

【報告事項】

以下の件が担当者より報告され承認された。

1 会報『山』3月号の内容の件 今村

2 小谷コレクション、シュラーギントワイト付図複製受領の件 藤本

3月1日、信州大学山岳総合研究所の高石教授より当会に寄贈された(平山会長、芳賀副会長ら8名が立会った)。

3 ヤマネットジャパン設立パーティーとシンポジウム開催の件 藤本

4月16日設立パーティー(主婦会館)、4月17日シンポジウム(大文理学部)の予定。

4 東海支部の森づくり、県有地

借用の件 藤本

東海支部が、高尾の森づくりと同様の活動をする事になり、県有地を借用する申し入れを行った。

5 中央分水嶺踏査についてのシンポジウム開催の件 石田

2月21日グリーンホテル水道橋で中央分水嶺踏査のシンポジウムを開催した。約200人の参加者があり盛会だった。

6 支部事務局担当者会議の件 賛田

2月21日は中央分水嶺踏査のシンポジウムに出席、22日には日本山岳会ルームにて当会の規定類の配布と説明を行った。また支部よりの要望も聞いた。

7 中央分水嶺踏査担当者会議開催の件 石田

22日は分担地区の確認と支部の状況報告とGPS使用方法(実技)を行った。

8 中国チベット登山協会代表来訪の件 藤本

2月23日チベット登山協会会長群増氏以下3名が当会を訪問された。

9 岡田氏提起の調査委員会の件

平山

岡田氏から調査依頼を取下げた
いという要望もあり、調査委員会
の調査内容の報告を聞きこれを了
承した。

10 資料・映像委員会主催の渡辺
兵力氏講演会通知の件

鈴木

4月3日(土)15時より東京体育
館で開催するので、皆様のご参加
をお願いしたい。

11 100周年記念事業募金委員
会の件

賛田

●個人募金の件

2004年度の募金依頼を、2
003年度の納入者、未納者に分
類してお願いをする。委員会、同
好会ルートも活用する。

通常総会案内はDM会社に依頼
するが手作業も必要か。

●企業募金は役員、旧役員の個人
縁故関係で実施。

●免税処置は日山協、体協経由で
依頼する。

●冠企画を検討する。

●百年史の配布方法も検討を要す。

野口

12 医療委員会
2月29日当会にてネパールのプ
ッタ氏が新しい高山病に関する講
演を行った。

13 アメリカ山岳会訪問の件

藤本

中村保会員がアメリカ山岳会を
訪問し、総会で「東チベット地域
の山について」の講演を行った。

14 自然保護全国集会の件

篠崎

9月10・12日、上高地にて実施
する。

15 その他

山岳保険の適用範囲拡大の件に
ついて東京海上火災保険(株)と打合
せ、納得がいったのでハイキング
など低山登山にも拡大して実施す
ることとした。

黒川

■テンギ・ラギ・タウ・シニア登
山隊、登頂断念

テンギ・ラギ・タウ(6943
m) シニア登山隊は、5月5日、
C3建設に向けて、60・65度の氷
壁にルートを延ばし、標高625
0mまで達したものの、C3予定
地直下のスラブ状の岸壁を突破で
きませんでした。

第2、第3のルートを検討しま
したが、残された装備、食料から
当初の目的であったテンギ・ラ
ギ・タウの新ルートからの初登攀
を断念しました。全員元気に14日
にはカトマンズに戻る予定とのこ

とです。

会員異動

物故

中島 宏 (5087) 03・12・2

松澤博志 (11556) 03・12・12

久保隆司 (13489) 04・2・12

高橋達雄 (5221) 04・2・27

池田 剛 (7209) 04・3・9

佐藤宗行 (10055) 04・3・17

蟹江武士 (7709) 04・3・20

掛本芳成 (11553) 04・3・21

松田禎夫 (4400) 04・3・22

開発秀三 (10979) 04・3・14

退会

梯 安夫 (4854) 宮崎

五十嵐高志 (5361) 越後

佐野敏郎 (5405) 静岡

渡辺洋子 (5764) 山陰

林原健蔵 (6531) 東海

中田晴紀子 (6647) 東海

江藤秀一 (7720) 東海

新谷明喜 (8241) 東海

表 弘 (8697) 北海道

森 亮二 (9591) 北海道

酒田昌輝 (9755) 岐阜

中野正一 (10016) 岐阜

深山寛二 (10563) 岐阜

戸谷 忍 (10670) 岐阜

中村 真 (11198) 岐阜

吉田陽助 (11243) 越後

永田秀雄 (11764) 北九州

渡辺くみ (11836) 東海

金澤敏秀 (11857) 東海

金澤静子 (11858) 東海

坪井義克 (12324) 東海

大崎 信 (12566) 東海

紺野文子 (12699) 広島

宮崎充正 (12973) 広島

大沼れい子 (13284) 岐阜

犬飼範行 (13325) 岐阜

小坂文男 (13374) 岐阜

小坂嘉子 (13468) 岐阜

山田 正 (13495) 静岡

稲野政男 (13526) 広島



ATLAS TREK

個人手配旅行から人気のトレックツアーや
エクスペディションのアレンジまで。充実度
が違う「旅」のプランニングをこころがけて
います。山旅などあらゆるジャンルを取り
扱っています。お気軽にご連絡ください。



株式会社 アトラストレック
(国土交通大臣登録旅行業1167号)

東京/〒160-0008 東京都新宿区三栄町23 TEL 03-3341-0030
大阪/〒540-0012 大阪市中央区谷町3-4-5 中央谷町ビル501号 TEL 06-6946-9111
名古屋/〒464-0807 名古屋区千穂区東山通り5-113 オークラビル6F TEL 052-788-2422

募集とお願い

谷区神南1-1-1 岸記念体育館)宛です。各都道府県の山岳連盟等ではありませんのでお間違いのないようお願いいたします。報告書の閲覧利用もできますので日本山岳協会にお問い合わせください。

3

第7回「秩父宮記念山岳賞」の推薦 秩父宮記念山岳賞審査委員会

第7回「秩父宮記念山岳賞」の推薦を下記のとおり受け付けています。多数の推薦をお待ちしています。

表彰対象分野 ・登山活動
・山に関する文化活動

推薦方法

第3回より「推薦者の業績提出により推薦」という方法で行っています。詳細は秩父宮記念山岳賞事務局へお問い合わせください。

締め切り 平成16年7月31日(土)

提出先 日本山岳会内 秩父宮記念山岳賞事務局

4

第2回山岳文化学会 演題募集 山岳文化学会

昨年3月8日に設立された本学会では、下のよう
第2回の大会を開催する予定です。大会の研究発表
の演題を一般から募集します。

主催 山岳文化学会

日時 2004年11月27日(土) 9時~28日(日) 正午

場所 東京慈恵医科大学(東京都港区西新橋) 予定

参加費 3000円(懇親会は別途)

テーマ

- 1 山の人文・宗教、民俗、哲学、文学、芸術、地名、風土、文献、登山史など
- 2 山の自然・地形、地質、気象、雪氷、氷河、動

植物、自然保護、登山道の管理など

3 登山行動と登山者

- a 医学、生理学、高所医学、体力科学、トレーニング、登山行動の心理など
- b 登山技術、指導方法、装備、レスキュー、スキーなど
- c 遭難、事故と法律、山岳会の運営など
- d 観光登山、バリアフリーと登山、山岳アドベンチャー、山岳文化探索山行など

4 山岳地域研究(登山記録を含む) 国内、海外

演題申込締切日 2004年9月30日(木) 消印有効

手続き 下記の2点をお送りください。

1 演題応募抄録

演題名、所属、発表演者名、本文は特に指定する体裁はありませんので、各自自由に作成してください(図表も可)、ただし印刷の関係で用紙はA4判用紙1枚におさめてください。

2 受領通知用ハガキ(切手貼付)

返信用の宛先を明記し、裏には応募演題と発表演者名をお書きください。

<抄録送付先> 〒170-0013 東京都豊島区東池袋4-2-7 萬栄ビル501号内 山森欣一

* 郵送のみ受け付けます。FAXなどでの演題申し込みは受理しません。

* 一般演題時間は口演15分、討論5分(スライドは35mmマウント、10枚以内をお願いいたします)

大姑娘山 高山植物咲き乱れる
(5025m) **登頂10日間**

出発日 A) 7/2(金) B) 7/4(日) C) 7/9(金) D) 7/11(日)
 E) 7/16(金) F) 7/18(日) G) 7/23(金) H) 7/25(日)

料金 A)~E) 325,000円 F)~H) 335,000円

総合カタログ 2004年度 無料
ぜひご請求ください!

 **アミューストラベル**
 〒160-0022 東京都新宿区新宿2丁目6-4 KN新宿ビル11階
 TEL: 03(5919)1188 FAX: 03(5919)1189

募集とお願い

1

100周年記念事業・登頂50年記念 マナスル峰(8164m)登山隊員募集 100周年フォーラム委員会・事業委員会

来年2005年に100周年記念事業として、日本人が初登頂した唯一の8000m峰・マナスルに50年ぶりに「できるだけ多くの会員が参加できる登山隊」を目指して計画しました(年齢・性別は問いません)。

今回のマナスル峰登山は「ヒマラヤの高峰を自らの力の範囲内で思い切り楽しもう」という、志を同じくする会員がヒマラヤの懷の中で活動できる喜びを大きな目標とし、自分たちの力量の範囲内で頂上を目指して精一杯の努力をすることを目的としています。

隊の名称 日本山岳会創立100周年記念事業・登頂50年記念「日本山岳会マナスル登山隊—2005」

目 的 マナスル峰(8164m)登頂

期 間 平成17年4月5日～6月4日(60日間)

募集人員 12名(ペースマネージャー・3名)

参加費用 280万円(最大限)
(ペースマネージャー・100万円)

申 込 9月末日までに氏名・会員番号・住所・電話・FAX・メール、過去の登山経歴等を記入し、手紙またはFAXにて河野吏宛(〒332-0015 川口市川口4-9-27-501 FAX048-256-8606)または日本山岳会事務局宛(〒102-0081千代田区四番町5-4 FAX03-3261-4441)

*電話での受付は一切いたしません。

*参加希望者には計画書を送ります。

*参加者には、通常の海外登山と同様にそれぞれの役務分担をお願いします。過去のヒマラヤ登山経験は問いません。なお、参加を希望されても、必ずしも隊員として選考されるとは限りません。

2

高峰登山調査へご協力をお願い 青年部高所委員会

02年のネパール観光省登山局の登山許可簡素化を最後に、ほとんどのヒマラヤ周辺諸国の許可申請に、(社)日本山岳協会等の推薦状添付が不要となったため、海外登山隊のデータが¹か所に集約されず、その情報管理に困難をきたしています。多くの記録が消散したままです。そのため指導すべき高峰登山の安全と遭難対策、環境問題、情報通知等が統一、徹底されなくなりました。

1998年3月4日、日本ヒマラヤ協会が中心になって情報管理機構の設置が提案され、4団体(日山協、JAC、労山、HAJ)とアジア山岳連盟、国際山岳連盟のそれぞれの担当者、山溪、岳人等出版関係者が、JACルームに集い「海外登山情報センター設立」構想が合意されましたが、構想は前進をみませんでした。

昨年12月15日、再度日本ヒマラヤ協会の呼びかけにより、データ収集のための「登山調査用紙実務者会議」が立ち上がりました。参加は日本山岳協会、日本勤労者山岳連盟、日本山岳会、日本ヒマラヤ協会、日本ヒンズークシュ・カラコルム会議の5団体。本年3月23日第3回の会合にて、各団体理事会の総意が得られ、本年4月1日より統一された調査用紙にて、情報の集積を実施することに決定しました。遭難事故対策の分母に必要なデータでもあり、成否を問わずの報告をぜひお願いします。統一調査用紙は本部事務局、支部事務局に配付してありますのでお問い合わせのうえ、入手願います。

なお、対象となる山岳はアジア地区では標高5000m²、その他は標高6000m³以上です。当会員登山隊の計画書(調査用紙あるいは自前計画書)および報告書(調査用紙のみ)の送付先は、(社)日本山岳協会国際部海外登山委員会(〒150-0041 東京都渋谷区)

INFORMATION



イラスト 宇都木慎一

◆安東浩正氏講演会・若者と冒険について

二十一世紀に入って4年が過ぎ
てなおますます混迷を深める時代。
そんな時代に抗して登山と冒険に
打ち込む若者たちがいます。その
一人である安東さんの今語られる
冒険に取り組む若者の真実。

日時 6月24日(木) 受付18時

開演18時30分

場所 学習院百周年記念会館(目

白駅前) 第4会議室

講師 安東浩正(登山家・冒険家、

著書『チベットの白い道』、

植村直己冒険賞授賞)

申込 氏名、住所、連絡先を明記

し、6月20日(締切厳守)

までにハガキかメールで絹

川祥夫まで(〒359-11

141 所沢市小手指町1

25-1・B814、kinuyo

@bdt.com.ne.jp。

*入場無料

*申込者には会場案内を送ります。

◆第14回「山を語る」

図書委員会

名著『花鳥風月の日本史』で自
然と文化の関わりを活写し、今春
『名山の日本史』を上梓した作家、
歴史ジャーナリストの高橋千劍破
氏に山を語っていただきます。

日時 6月29日(火)18時30分

場所 日本山岳会集會室

演題 日本の名山——その歴史と

文化

講師 高橋千劍破氏

◆夏山行「加賀白山」

事業委員会

百名山のひとつ「白山」を花を
求めて、別当、室堂、白山一里野
温泉へと縦走します。白山一里野
温泉へのコースは天候によつて変
更することもあります。

日時 7月9日(金)～11日(日)

集合 7時 金沢駅

宿泊 1日目 白山室堂小屋

2日目 白山一里野荘

解散 12時頃 金沢駅

費用 2万8千円(2泊4食・現

地交通費・保険料等)

定員 20名

申込 6月10日までに氏名、会員

番号、住所、電話、FAX

を明記しハガキかFAXで

植木淑美宛(〒195-0

053 町田市能谷町1

151-54 FAX042-73

4-1498)

*申込者に詳細案内を送ります。

*3000円クラスの夏山登山の

体力が必要です。

◆気象講座「異常気象」

科学委員会

例年夏山シーズンに先がけて行
つてきた夏山気象の講座。今年は
テーマを変えて、近年しばしば話
題になる「異常気象」についてお
話を伺います。この夏後半から初
秋の山の気象にどのような関わり
が予測されるかを学びます。

日時 7月15日(月) 18時30分～20

時

講師 城所邦夫氏・日本山岳会

員・元日本気象協会

会場 日本山岳会集會室

問合 北野忠彦(090-304

6-1189)

*参加自由、多数ご参加ください。

◆海外登山・韓国の山

事業委員会

日時 8月26日(木)～29日(日)

場所 仁寿峰・北漢山

費用 9万4千円(航空・宿泊・

食事・登攀ガイド・現地移

動含)

募集 限定15名

申込 7月15日までに氏名、会員

番号、住所、電話番号、F

AXを明記しハガキかFAX

で山崎浩子宛(〒236

10033 横浜市金沢区

東朝比奈1-65-3 FAX04

5-78218712)

*申込者に詳細案内を送ります。

*岩登りをしない方もご参加くだ

さい。希望者にはハイキングも計

画いたします。

◆白馬岳・三國境山行参加者募集

山の自然学研究会

高山植物が素晴らしく山岳地形

も多様性のある白馬を登りませ

か。当会会員が案内します。

日時 7月28日(水)～30日(金)

集合 11時24分白馬駅(新宿発7

時30分あずさ3号)

定員 先着10名

宿泊 白馬大池山荘・白馬山荘

解散 白馬駅15時頃

費用 2泊6食・2万5千円

申込 住所、氏名、電話を明記し

7月10日までにハガキかメ

ールかFAXで舟根章宛
(〒233-0012 横浜
市港南区上永谷1-13-13
FAX 045-842-5622
a-funane@hte.highway.
ne.jp)

◆2004年日本山岳協会展

日時 7月5日(月)～11日(日) 11時
～18時30分(11日、日曜、
最終日は17時まで)

会場 朝日アートギャラリー(中
央区銀座4-10-1 TEL 0
3-3567-1671)

*入場無料

ルーム日誌

3月
1日 総務委員会
2日 自然保護委員会 アルパイ
ンスケッチクラブ 九五会
3日 山岳地理クラブ 02同期会
5日 自然保護委員会 図書管理
委員会 フォトビデオクラ
ブ JAC01会
8日 インターネット100周年
記念打合せ
アルパインスキークラブ
9日 常務理事会 学生部
図書委員会

10日 アルパインスケッチクラブ
理事会 つくも会 九三会
11日 山の自然学研究会
12日 事業委員会
15日 アルパインスキークラブ
資料委員会
16日 百年史委員会 山研運営委
員会 100周年フォーラ
ム委員会 山遊会
17日 三水会
18日 財務委員会 科学委員会
ゆきわり会
19日 長期目標検討委員会
22日 図書委員会
23日 同好会分水嶺会議
23日 自然保護委員会 インター
ネット小委員会
24日 00同期会 九五会
24日 自然保護委員会
25日 アルパインスキークラブ
青年部 事業委員会
26日 緑爽会
27日 フォトビデオクラブ
29日 評議員会
30日 学生部 02同期会
山の自然学研究会
3月来室者699名

◆編集後記◆

● 今月15日開催の通常総会を経て

「創立100周年記念事業」が本格
化します。これまでの「周年事業」
ではヒマラヤの高峰登山・難ル
トなどが目玉行事としてありまし
たが、今回は会員の全員参加をモ
ットに「中央分水嶺踏査」に取
り組みます。すでにかんりの支部
が踏破活動に入ったようですが、
進捗状況を会報で逐次お伝えして
いこうと思います。

● テンギ・ラギ・タウ・シニア登
山隊は登頂を断念しましたが、全
員元気とのことで、皆さんそれぞ
れの登山を十分楽しんだことと思
います。報告会が楽しみです。

● 来年の「100周年記念・登頂
50周年記念マナスル登山隊」の募
集も始まります。これまでの会を
挙げての大遠征隊とは違い、会員
が自分なりの登山活動実現に向け
て応募してください。先に決めた
「海外登山基金」の助成対象の隊を
みても、2人とか3人の先鋭的な
隊など、バラエティに富んだ隊が
多く、登山に対する考え方の幅が
広がっていることを感じます。

● 会報「山」3月号の巻頭に池田
氏に依頼して「世も末のカタログ
登山」を掲載しましたが、これに
色々な方からご意見をいただきました

した。「久方ぶりに日本山岳会会員
の矜持を見ました。日本山岳会健
在なりのおもいがよみがえりまし
た」わが意を得たりの思いで読み
ました。指摘の風潮が、この頃す
ばらしい山の本に巡りあえて幸せ
だなと感じることが少なくなつて
きた理由だと思っています。1年に1
冊で良いからよき山の本に巡りあ
いたいものです」などなど。その
一方でHPの方には「他人の作つ
た基準による登山はやめて、もつ
と独自のマシな登山をしなさいが
言いたいことなのだろうと薄々わ
かるにしても、いったいマシな山
登りとは何なのかまるでわからな
かった」との声もいただきました。

● 今後も日本山岳会の原点である
「登山」について様々な「声」を掲
載していきたいと思っております。
(今村千秋)

日本山岳会会報 山 708号

2004年(平成16年)5月20日発行
発行所 社団法人日本山岳会
〒102-0081
東京都千代田区四番町5-4
サンビュウハイツ四番町
TEL 東京(03)3261-4433
FAX 東京(03)3261-4441
発行者 日本山岳会会長 平山善吉
編集人 今村千秋
Eメール:jac-kaiho@jac.or.jp
印刷 株式会社 双陽社